

大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和5年6月1日発行

文責 校長 中尾 聡彦

「Best Part～今しかないこの一瞬」

5月21日に体育大会が開催されました。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で入場者を制限していましたが、今年度はその制限を解き、多くのご来賓や保護者、家族に見守られながら、子どもたちは練習の成果を十分に発揮することができました。4月に入学したばかりの1年生にとっては初めての体育大会です。9年生にとっては、この学校で最後の体育大会になります。1年生から9年生までがそれぞれの思いを抱きながらの素晴らしい体育大会でした。



【紅分団】



【青分団】

練習期間中には、9年生が膝をついて1年生や2年生に話しかけている姿を幾度となく見かけました。これは、義務教育学校ならではの微笑ましい光景でした。個人的には、後期課程(7～9年生)の生徒のあふれんばかりのエネルギーを発揮できる場を限られた時間の中でどう設けるのかと考えていましたが、徒競走や団体演技ソーラン合戦でその姿を見ることができました。

ソーラン合戦については、前々日の夕方に、両分団がそれぞれの演技を披露し合う場が設けられました。生徒たちの懸命な演技を通して伝わってくる思いに心を打たれました。また、関わった教員からは、「見る側の態度はそれでいいのか？」という問いかけがありました。これは互いの努力をリスペクトして欲しいという願いと、関わった教員の中にもある熱い思いが込められた言葉だったと思いました。生徒たちと教員の一体感を誇らしく思いました。

また、解団式では各分団のリーダーが、1年生から9年生をまとめることの難しさを話しながら、最後には「自分たちについてきてくれてありがとうございます。」と話していました。その話を、疲れ切った1～2年生も真剣な顔をして最後まで聞いていました。これは、練習期間中、リーダーにお世話になったという思いがなければ見ることができない光景だと思いました。

他にもたくさん感動する場面がありました。この学校に赴任できてよかったと思いました。

第1回南波多郷学館学校運営協議会が行われました

5月26日に「第1回南波多郷学館学校運営協議会」が行われました。

なじみのない名称であるため、どのような会議なのかと思われるかと思います。

学校運営協議会とは、「地域で『どのような子どもたちを育てるのか』『どのようにして育てていくのか』という目標やビジョンを地域や保護者の方々と共有し、学校と地域、保護者が力を合わせて子どもたちを育む」ことを目的とした会議で、地域や区長会、育友会の代表者で組織されたものです。

まず、今年度の学校運営方針について説明させていただきました。そして、学校での取り組みを評価し改善へつなげる「学校評価計画」、読み聞かせボランティア「おは梨の木」や川柳教室など、南波多郷学館の魅力ある活動の年間計画を確認したところです。

南波多町では、コミュニティ・スクールに10数年前から取り組んでおり、先進的な取り組みは県内でも注目を集めていました。ここ数年は、コロナ禍の影響で活動が制限されてきましたが、今年度は再開できる状況になってきました。地域の方々のご支援を学校にいただくばかりではなく、学校も地域に貢献することで新たなコミュニティ・スクールを創り上げていきたいと考えています。いろいろなご意見をいただくことができればと思います。

保護者の声

5月11日に配付しました「学校だより第2号」で保護者の方からうれしいご意見をいただきましたので紹介いたします。

「本物と出会う」ということはよいことですね。本物の刺激を受け、憧れをもつと、自主性をもって学ぶことにつながると思います。ふるさと探訪での、静かにメモをとる姿や熱心な地元講師のご支援は素晴らしいです。1～9年生までが同じ空間で学ぶことができる学校に通うことができてよかったです。「中庭の利用」は、幅広い学年の交流、コミュニケーション、癒しの場になるといいと思います。

キリトリ

【通信欄】 ご感想・ご意見をお寄せください。 (年保護者 氏名)



この QR コードを読み込まれると、南波多郷学館のホームページをご覧になられます。